

文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.71 2015年8月2日発行
川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団内 TEL 044-511-4951 郵便振替 00250-3-18369

第5回 川崎郷土・市民劇 「華やかな散歩」

市民劇にいろいろな声が寄せられました

前号に引き続き第5回「川崎郷土・市民劇」の感想を、観劇された方、出演された方に寄せていただきました。

市民劇「華やかな散歩」を観て

今の状況に見合った劇だった

相澤 雅子

詩人、佐藤惣之助の碑が川崎信用金庫本店の裏にあることは知っていましたが、戦争に関わっているということはこの劇を見るまで知りませんでした。

惣之助は、歌謡曲で国民の人気が高いことを利用して、軍部から戦意高揚の歌を作らされようとしています。個人の自由が許されない中、惣之助が苦悩する姿がよく描けていると思いました。そして、「湖畔の宿」を作詞し、それが発売禁止になる前にすでに多くの人々の間に広がっていたことは痛快でした。沖縄の人や朝鮮の人は川崎に馴染みの深い人たちですが、その歌や踊りも入っていて、華やかな舞台でした。

東海林太郎が「赤城の子守唄」はヤクザの歌だから歌えないと断ったとき、ヤクザではないと論ず場面がありました。昔、京浜労演で村山知義作の「国定忠治」を例会で取り上げたときのことを思い出しました。

小林多喜二が虐殺されたことが伝わってきたとき、詩人たちが「多喜二は俺たちにどう生きるのかを問いかけて死んだんだ」というセリフがありました。印



写真：©小池汪、以下同

象的でした。そういえば今度8月にその多喜二の「蟹工船」を市民劇場に例会でとりあげるんですよ。

戦争に向かっていく時代の怖さが、今の日本の状況と重なって見えて、この劇が上演されたことの意義は大きいと思いました。(川崎市民劇場なかはら会員)



「華やかな散歩」川崎郷土・市民劇を終えて

ゲストではなく主体となって

藤田 るみ

私が市民劇に参加するのは今回で2回目、前回「池上幸豊とその妻」から8年ぶりであった。

まず、今回の公演が無事に終了し、周りの方の理解とご協力のお蔭で、私が後半の演出助手とキャストを全うできたことにひたすら感謝する。

さて、演出部として振り返ってみると。

一般公募の際、どのような説明がされていたか私にはわからないが、出演者は主にアマチュア劇団員と一般市民、スタッフはプロという構造から、一般の参加者や、まだ演劇経験の浅い人たちにとっては、市民劇は役者のみの参加で良く、裏方の役割の少ないものというイメージがあるのか、全ての稽古に参加する必要



はないというスタンスを取っている人、自分の役が決まってからは自分の出番以外の稽古にあまり参加しない人もいた。または（これはアマチュア演劇永遠の問題だが）諸事情により稽古時間の確保が思うようにできない人も多かった。すべての役者が揃って稽古できたのはほんの数回だ。

予期せぬ事態により中途から演出助手になった私にとってこれが一番の修行ポイントだった。

役をたてずに稽古できる事の喜びを自分がキャストでもあることから尋常じゃないくらいかみしめた。稽古は無駄に長くても多くてもあまりいいことはないが、役の大小でこの役なら何回くらい出ればOKと自分で勝手に見積もれる物では決してない。演劇が一人で仕上げられるものではないからだ。

経験を積み、やればやるほど自分がどの程度のものかあぶりだされてきて毎回窮地に追い込まれ、稽古の重要性が身に染みてくるものだが、まだその事に気付かない、または興味がない、自分の存在に謙虚でない人間ほど稽古をしないで、本番で一発、いいところ見せよう、客を沸かしてやろうという訳のわからない気概に溢れていて閉口する。

稽古でできない事が本番でできるわけがない。万一できてまぐれであり、観客に助けてもらっただけだ。

また、アドリブや即興をメインに芝居をする事が優れた役者であると、聞きかじり程度の知識で思い込める輩も危険だ。そもそもそういう輩の言っている自然な演技って何だ。大声で正面切るのは自然じゃなくて横向いてぼそぼそだらだらしゃべるのが自然なんて、小劇場ブーム後ちょっと流行って、もうとっくに廃れ



てる価値観だもの。本物はそんな些末的なことを軽く飛び越えて遙か遙か上に行くのだから。

台本を体に染み込ませ、自分の身体の全てを使って表現し、役を生きるという基本の芝居も押さえられない役者が手を出せる領域ではない。

もちろん、見事に即興をやったのける俳優はたくさんいる。私も知っているし、そんな風に自在に空間に存在できるようになれば素敵だろうなと憧れてもいる。だが、そういう俳優たちが精神においても身体においても並々ならぬ訓練を日々重ねているのも重々承知だ。そしてその人たちは書かれたことを書かれたとおりに寸分違わず繰り返してやってのけても、まるでその場で考え発しているように（そこで普通に生きているように）見えたりする。

稽古で築き上げることができなかった信頼関係も本番による気分の高揚で少しは補えるものの、真摯に向き合った時間の成果の前には何の力も持たない。



芝居は結果のみお客さんに評価されるものだと分かっているけれど、過程をいかに真剣に過ごすかによって、その後の役者人生は全く変わるのだと先輩役者の役作りを目の当たりにし、改めて認識できたのは収穫であった。

規模に関わらず一つの公演を打つために準備しないといけないことにさほどの変わりはない。いくらプロのスタッフの仕事が正確で迅速であるとはいっても、4か月以上の稽古期間に付き合って貰うほどの財力はないのだから、市民劇とはいえキチンとした料金をいただいてお客様に見せる芝居にするためには、自分たちで、様々なレベルにある演じ手を取りあえず、人前に出せるところまでにもっていかなくてはならない。当然、京浜協同劇団で長年活動されている方々や舞台経験を積んできた人たちがそこを補っていく訳である。ともすると、舞台作りが対等の力関係でなくなり、まるでカルチャースクールの無料講座の様になる。講座を開いている側だけに責任が生じ、受けている側は自分がステージに立つためのあらゆる環境が用意されて当然だと思う。それがどんなに恵まれていることか気が付くひまもない。もちろん、みんなが均一に表も裏

も受け持つなんて出来る訳がない。そりゃ私だって役者だけならその方がいいし、いろんな状況の人がいてあたりまえだし、知っているものが知らないものに教えるのはどこの世界でも同じことだが、どうも腑に落ちない。過保護すぎやしないか？人に任せるより自分でやったほうが面倒でないこともあるけど。

毎回同じ人たちが全てのお膳立てをして、安全で快適な演劇空間を身を削って作り出し、ゲスト扱いの出演者の手を引いて舞台にあげるといった構造がチラつくのは残念だ。

せっかく演劇に関わったのだから、みんなで芝居を

作り上げる喜びと芝居人として一人で思考し行動する基礎力を身につける喜びを心の底から味わってもらいたいし、私も味わいたい。一応毎回公募型でメンバーは変わるとはいえ、今回経験した事を次回に繋げなくてはもったいない。一回限りの参加だと決めている人もいるだろうが、何度か参加している人たちには裏方としてのスキルも上げてもらいたい。ゲストではなく主体となって牽引してほしい。様々な人が集まる市民劇だからこそ力を出し合えばダイナミックに発展していくに違いないのだから。(劇団川崎演劇塾)

文化の仲間定期総会・記念音楽会

「安達元彦の音楽会」レッスン 1

二村 柊子

7月24日(金)、出席者13名(劇団員、文化の仲間会員、その知人)で、最初のレッスンです。

私たちは“声”という音を持ち“言葉”も手に入れ発達させてきました。——ハラ(肝)で読む、ハラに収める朗読法の模索——まず、短い文章を声に出してみる。日本語の特性である等拍性(各音が規則正しく拍を刻む)の実験。いつかどこかで聞いたことはあるけれど、いざやってみると易しくはない。時に自意識が見え隠れ。

そして、10月4日(日)のプログラムの一つ、いま、「集団的自衛権」におもう、の冒頭、「寝てはいけないのだと思う 黙っていてもいけないのだと思う あきらめては いけないのだと思う」この部

分の練習となりました。本番ではどんな読みになるのか、どんな構成になるのか、これからのレッスンで組み立てられていくことと思います。第2回目からの稽古日程もほぼ決まりました。ぜひ、この稀有な試みにご参加ください。

また、星ひかり、平瀬由季奈、たまこ、秋山ちづる、武本匡弘、三戸眞澄……の出演も予定されています。この方々との出会いにもご期待ください。

文化の仲間定期総会・記念演奏会まであと2か月です。レッスンに参加する人、舞台に立つ人、客席に着く人……みんなで力を合わせ、この音楽会を創っていききたいものです。よろしくお願いいたします。

文化の仲間定期総会 記念演奏会

安達元彦の音楽会 (仮題)

企画・作曲・構成 安達元彦 (+実行委員会 [文化の仲間・京浜協同劇団])

日程 2015年10月4日(日) 午後(予定)(午前中に文化の仲間の定期総会を予定しています)

会場 スペース京浜(京浜協同劇団小劇場)

2015年秋の文化の仲間の定期総会の記念行事は、安達元彦さんの音楽の今を表現する演奏会を計画しています。

上記のように、「音楽会」を作り上げるための手探りが始まっています。あなたもそれに参加することができます。

伊東温泉に行ってきました

西川 日女子

2012年4月の相模原市青根緑の休暇村での交流旅行から3年ぶりに行われた伊東温泉ホテルよしのでの交流会、参加者は文化の仲間会員6名、劇団員7名、合計13名と少人数でしたが天気にも恵まれ、期待に胸を膨らませてホテルの送迎バスで出発しました。



バスの中で私も含め数人が、今までかかわってきた仕事のこと、京浜協同劇団の芝居との出会いなどを語りました。ただ、残念だったのはマイクがなかったことと、さらに私は耳の聞こえの悪さもあり、離れた座席にいた護柔さんの話をほとんど聞き取ることができなかつたことです。午後4時過ぎ、ホテルよしのにチェックイン、部屋で休憩後、久しぶりの温泉を楽しみました。仕事の都合で電車でホテルに直行した城谷さん、渡辺さんも加わり、午後6時30分から広間で夕食となりました。

数年前から正座ができなくなり、椅子が必要だった私は部屋にあった椅子を持って広間に行きました。でも広間にはすでに椅子が2個用意されておりました。私は持ってきた椅子を部屋に戻しその椅子に座りました。でもその椅子はすでに申告した方の椅子だったのです。「あなたも椅子が必要なのか、こういうことは事前に幹事に申告してもらわなければいけないんだ」

と小野寺さんから言われたのです。仲居さんのはからいで私の椅子も用意され、座ることができましたが……すいませんでした。

翌日は朝から雨が降っていましたが、なんとか小降りの中にホテルの送迎バスで城ヶ崎海岸へ案内してもらいました。断崖の間に架けられた吊り橋は歩くとゆらゆら揺れ少し怖かったのですが、断崖絶壁の美しさは格別でした。

その後、そば屋で昼食をとり、わさび漬けや干物、和菓子等を扱う土産物店へ寄り、各自お土産を購入しました。



帰路は横浜を通過して川崎へ直行し、解散となりました。そのとき、驚き的一幕が……。『西海亭で飲もう！』突如、小野寺さんが宣言したのです。「私は劇団員と話したことがあまりない。きょうはじっくり飲みながら交流したいんだ」。私は帰らせていただきましたが、私よりひとまわりも年上の小野寺さんのあの元気の秘密はどこにあるのでしょうか？ やはり、おいしいお酒かしら？ なにはともあれ楽しい交流会でした。皆様どうもお疲れ様でした。

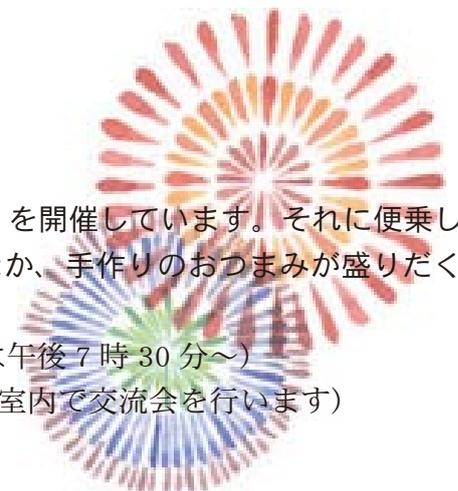
(文化の仲間・世話人)

花火納涼会

東京都大田区では、平和都市宣言を記念して、毎年「花火の祭典」を開催しています。それに便乗して、劇団屋上で花火納涼会を開催します。——例年好評の焼き鳥のほか、手作りのおつまみが盛りだくさん！ ビール・お酒ほか、飲み放題です！！

日程 2015年8月15日(日) 午後6時30分ころから(花火は午後7時30分～)

会場 京浜協同劇団・屋上(雨天決行。花火大会が中止のときは室内で交流会を行います)



「戦後 70 年を機に、自分史を振り返る」・その 1

——創作と舞台を中心に——

小田 健也

昨秋から私は「自分史」を見直そうと年表を作っていたのだが、折も折、「文化の仲間」から原稿の依頼を受けたので、その自分史を中心に進めることにした。さて自分史ならば、昭和からでいい筈なのだが、何故か明治維新からの日本史が気になり始め、明治時代に少し触れることにする。

明治という時代は、日本がアジアの盟主として輝かしい発展を遂げた時代のようなのだが、しかしそこに一貫して取られていた「国家」の方針は、「富国強兵」であった。そしてその帰着として、日清、日露の戦争があり、さらに満州事変、日中戦争、そして太平洋戦争へと繋がっていったのではないかと。更に言うならば、この行きつく先に「広島」と「長崎」の原爆投下があったのではないだろうか。

○「明治維新」とは？

「維新」とは、「これ新たなり」と読めるが、一体何が新しくなったのか。確かに廃藩置県で藩主が県知事に変わったり、刀を挿して往来を闊歩していた者が急に洋服を着て歩く姿は、「これ新たなり」という風景だったかもしれないが、果たして「世の中がガラリと新しくなり、人々は新しい時代に、そして新しい政治に」参加していったのだろうか。

確かに……、明治 22 年 (1889 年) には「大日本帝国憲法」が公布された。明治 23 年 7 月には「第一回衆議院選挙」が行われ、その年の 11 月には、「第一回帝国議会」の開院式が行われている。これを見ると、形の上では一般の国民が政治に関わっていったかに見えるが、果たして日本は、選挙制度が行われ、国会が始まったというだけで「近代国家」として生まれ変わったと言えるのだろうか。

——因みに云えば、その当時の選挙権を持つ資格がある者は、① 25 歳以上の男子。② 女性は駄目。③ 満 1 年以上その府県に住む者。④ 国税を 15 円以上納めている者。(相当の額だよ)に限られ、広く選挙権が与えられていたとは言い難い——。

更に別の事例を挙げれば、昭和一桁生まれの私の世代にとっては、式典ごとに聞かされた「チンオモウニ……」で始まる「教育勅語」が、この年に発布されている。

しかし一方で忘れてならないことは、明治 17 年 (1884 年) に、民衆運動の萌芽とも云える「加波山事件」や「秩父困民党事件」が起きているということである。これら民衆運動は、「富国強兵」という国家的な方針

に逆らって、日本での「民主主義」の実現を目指す運動として、記録されなければならない。

私はこのような想いを込めて書いたのが、オペラ「秩父晩鐘」である。

埼玉オペラ協会公演・オペラ「秩父晩鐘」

昭和 63 年 (1988 年)、私は「秩父晩鐘」という作品を書き、池辺晋一郎作曲で〈埼玉県民オペラ〉として公演した。この作品も「維新」に対する問題提起という意図があって企画された作品である。

養蚕を主とする秩父の農民たちは、生糸の値段の低落と高利貸しの苛酷な取り立てに、若者を中心に「世直し」を掲げて蜂起するが、警察や軍隊の武力によって鎮圧された事件である。

この作品の終景、主人公の青年・惣吉は、親友の新治郎と共に、新たな同志を求めて信州へ向かって山越えしていたが、待ち伏せていた政府軍の連発銃・「村田銃」の一斉射撃に遭って、命を落とす。しかし瀕死の惣吉は、血まみれになった「ルソーの民約論」の冊子を手に、すでに息絶えた新治郎に向かって必死に叫びかける。「おい新治郎、死んじゃならねえ！ このルソー、俺たちは、これから読まなきゃならねえんだぞ。」

惣吉たちの目指した新しいルソーの世界は、明治という時代には、まだ遠いものであったのだろうか。

この作品の上演には、京浜協同劇団の人達がこぞって参加して、舞台作りを手伝ってくれた。それと云うのも、京浜協同劇団とは、これ以前に舞台作りで緊密な交流があったからだ。京浜協同劇団の団員は、この「秩父晩鐘」という作品に共鳴し、参加することによって、明治と云う時代に関わっていけると思ってくれたからだろう。素晴らしい共同作業であった。

「秩父晩鐘」の舞台。血まみれの「民約論」を手に… (写真：小田さん提供)



◎文化の仲間通信◎

◆戦後 70 年特別企画前進座公演

南の島に雪が降る

日程・会場 8月7日(金)～17日(月) 日本橋三越劇場
18日(火) 武蔵野市民文化会館

観劇料 6800円・4000円・3000円(詳細問合せ)

原作 加藤大介/脚本 瀬戸口郁/演出 西川信廣/
協力 加藤武

生死をさまよう兵士たち、生きる希望は…芝居！
命がけて芝居を創り、命がけて芝居を見た、うそのよ
うな本当の話——

各日で上演時間が違いますので、お問合せください。

問合せ 前進座チケット 0422-49-0300

http://zenshinza.com/stage_guide2/2015minaminoshima/index.html

◆第 54 回 北上みちのく芸能祭り

日程 8月7日(金)8日(土)9日(日)

会場 北上市文化交流センター・駅前大通りほか

主な出し物 7日 18:30～20:00 市民パレード
20:00～20:30 鬼剣舞大群舞/8日 13:00～15:30

民俗芸能公演 17:00～18:00 みこしパレード/
9日 10:00～12:30 民俗芸能公演 19:30～20:45
灯籠流しと花火の夕べ

問合せ 北上観光コンベンション協会 0197-65-0300

<http://geinoumatsuri.com/>

◆第 17 回響け！みやまえ太鼓ミーティング

日程 8月22日(土)第1部 13:50～17:30

第2部 18:00～20:00

会場 第1部 宮前市民館大ホール 第2部 市民
広場(雨天時、宮前市民館大ホール)

参加費 無料

ゲスト 和太鼓×マリンバ GONNA (ガナ)

主な演目 第1部 オープニング:野川囃子保存会(野
川神明社祭囃子・おかめの手踊り)/太鼓7団体に
よる発表 第2部 かがり火の中で、太鼓4団
体による競演

問合せ 宮前区役所地域振興課 044-856-3135

◆川崎市民劇場第 327 回例会

東京芸術座公演 蟹工船《村山知義演出による》

日程・会場

さいわい市民劇場 8月22日(土)16:00 幸市民館

市民劇場なかはら 24日(月)18:15

25日(火)13:30 エポック中原

作 小林多喜二/脚色 大垣肇/演出 印南貞人・川
池丈司/出演 北村耕太郎・井上鉄夫・笹岡洋介・
神谷信弘 ほか

昭和のはじめ——カムサッカの怒涛の海で未来を切
り拓く男たちの壮大なドラマ。キャスト 33名の汗が
飛び散る！

申込み・問合せ さいわい市民劇場 044-244-7481

市民劇場なかはら 044-455-7950

◆第 3 回 平和をねがう灯ろう流し

会場 中原平和公園内二ヶ領用水

日程 8月26日(水)

15:30～ 灯ろう作り

16:30～ オープニング(子供たちの歌・腹話術)

18:00～ 灯ろう流し(平和館前から)

19:00 終了

費用 材料費 100円

自分で作った灯ろうを、みんなで流しましょう！
みんなの幸せを願い、平和な未来をねがって…

問合せ 実行委員会・清水 044-411-6459

◆第 3 回 なかはらうたごえ喫茶

日程 9月25日(金)14:00～16:00

会場 中原市民館 2F 視聴覚室

参加費 500円(飲み物、お菓子付)

青春の歌、平和の歌、童謡など、楽しく歌いましょ
う。定員は60名です。

問合せ 実行委員会 小寺 044-433-5984

◆輝け人生 今ひびかせよう 平和のうた

合唱団きずなコンサート

日程 11月12日(木)開演 14:00

会場 杉田劇場(JR 杉田駅徒歩1分)

チケット 1000円

問合せ 山浦 090-5526-1576

◆第 23 回 いちばん星コンサート

日程 2016年1月11日(月・休)14:30 開演予定

会場 エポックなかはら大ホール

指揮 山寺圭子 ピアノ 梅澤文子

演目 混声合唱組曲「海の祈り」/美らうた/島唄/
平和の琉歌 ほか

問合せ 照井 090-8109-3829

●世話人会から会費納入のお願い

2015年分の会費の納入がまだの方がいらっしゃい
ます。まだの方には納入用の郵便振替用紙をお送りし
ますので、納入をよろしくお願ひします。

■文化の仲間ギャラリー■

小野寺 晃⑰

